

道徳学習指導案

4年3組 36名 指導者 西國原 拓也

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 子ども一人一人の思考力・判断力・表現力を高めるために、「見える図」は効果的であったか。
- 対話活動における教師の発話は、子どもにより深く道徳的価値を理解させることができたか。

1 主題名 友達のことを思う（資料名「ぼくらだってオーケストラ」〈読み物－東京書籍〉）

2 ねらい

友達と互いに理解し合い、助け合おうとする心情を育てる。（2－③ 友情・信頼、助け合い）

3 主題について

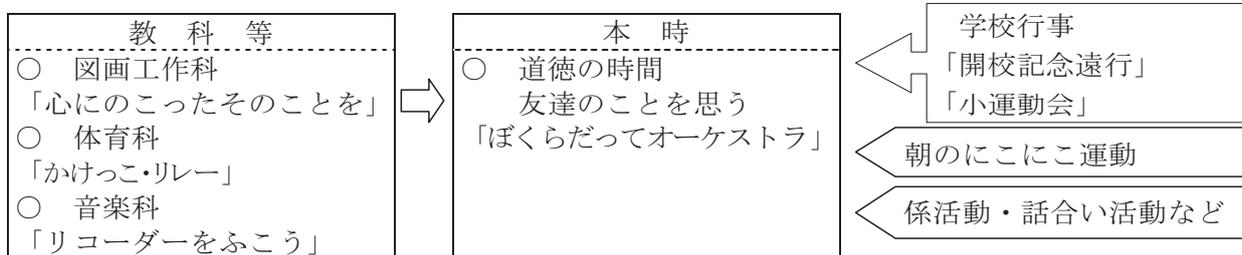
(1) 主題の価値

本主題は、中学年の内容項目2－(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」で、友達のことを互いによく理解し、助け合ったり、励まし合ったりすることで、信頼関係がより確かなものとなっていくことに気付かせ、相手と共に伸びていこうとすることをねらいとする内容項目である。これは、低学年の「友達と仲良くし、助け合う」から発展し、高学年の「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う」に発展するものである。また、助け合いの言動をとることで、気持ちが通じ合い、健康的な仲間集団を育成していく。さらに、信頼し合い、励まし合うことで、友情を土台として、信頼と助け合いの心情を育てていく。

この期の子どもたちは、集団での活動などが活発になり、同じ傾向をもつ子どもたちが、気の合う仲間同士でグループをつくり、一緒に行動するようになり、グループ同士で対立する場面も見られる。また、自分の不利になることについては相手の非を厳しく追及するが、自分の非については寛容な態度を要求するなど、まだ、十分に相手のことを考えにくい面も見られる。

そこで、友達の本当の思いに気付かせ、誠意をもって友達に接しようとする心情を育てることは大変意義があると考えます。

(2) 他教育活動や環境、地域社会との関連



(3) 子どもの実態について

平成26年4月8日 調査人数36名

①	<p>本当の友達とは、どういうことだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりません。・優しく困った時に助けてくれる。・どんな時でも一緒の大切なもの。 ・意地悪をしない。分からなかったり、困っていたり、悩んでいたなら相談にのってくれる相手。 ・なかがよくて時にケンカをして、仲直りができる。 ・絆を深める心・仲がよくて助け合っていること。・どんな気持ちもすぐに伝えられること。 ・協力出来る友達のこと。・二人で努力して助け合うこと。 ・一緒に会話をしたり、遊んだりすること。・助け合える、仲よしだから。 ・悲しい時になぐさめてくれる。・約束を守り、相談してくれる人 ・思いやりがあって、助け合いがある人。 ・教え合って、みんながどんどん成長してそれが続くのが友達。
②	<p>本当の友達だと思う理由は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりません。・いつでもみんなを支えたり、聞いたりしてくれる。 ・けんかしたり、なぐさめたり、仲間でもありライバルでもあるから。 ・かげで意地悪をしていると本当の優しさではないから。 ・一人では生きていけないから。・言い合ったりするけど、解決できるから。 ・絆が深まればずっと友達でいられるから。

- ・友達だからこそ助け合えるから。
- ・一人で出来ないこともあるから。
- ・人間は協力して生きていくから。
- ・友達がなぐさめてくれたから。
- ・思いやりや助け合いがないと友達の気持ちが分からないから。
- ・自分の今の気持ちを何でも伝えられるから。
- ・一緒にいてくれるから。
- ・助け合わないと他人事と同じだから。
- ・成長して助け合うものだから。

【考察】

実態アンケート①②より、今までの体験を基に、自分なりの的確な意見をもっていることが分かる。しかし、内容を見てみると、自分にとって、都合のいい人に捉えがちである。

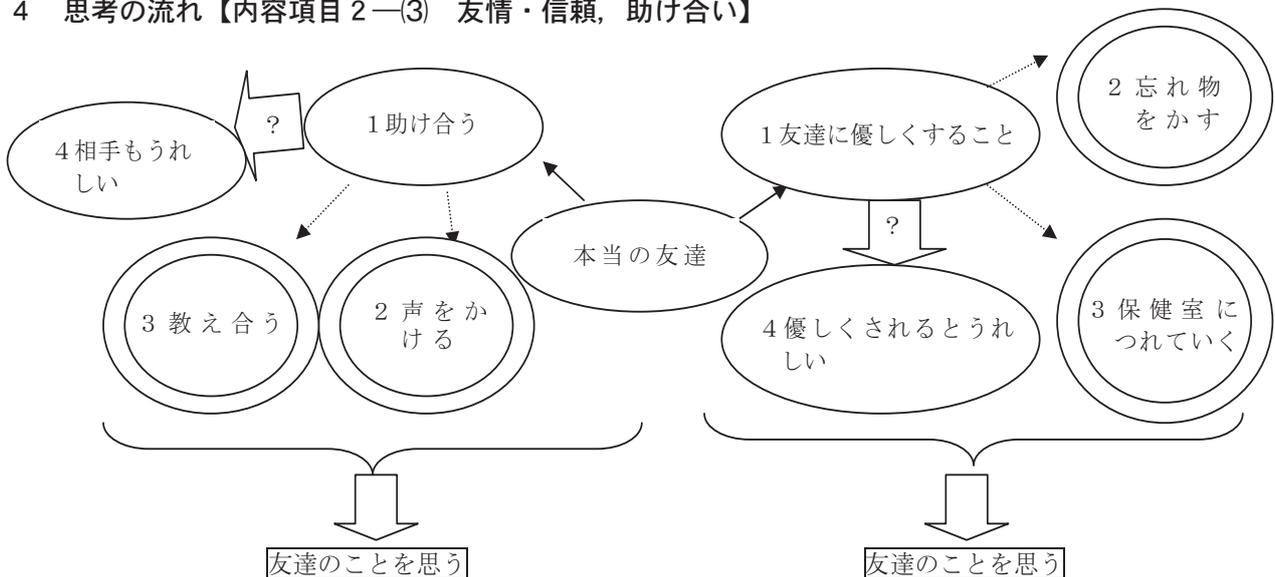
また、分からないと書いている子どもの友達関係を見ていると、積極的に自分から友達と関わるのが苦手な傾向にある。

これらのことから、集団での活動が活発になるこの時期に、健康的な仲間集団を積極的に育成していくために、本当の友達について追求していくことは大切であると考える。

(4) 資料について

本資料は、市の音楽発表会に参加することになった4年生のてつおが、楽器が苦手ながらリコーダーの担当になる。上手に吹けないてつおになつみが親切に教えるが、てつおは最初はしらんぷりしている。しかし、なつみの気持ちが一緒に練習することを通して分かるようになる。最後には、なつみの思いを知り、逆上りを教えてあげようと思うまでに、なつみのことを信頼するようになる。

4 思考の流れ【内容項目 2—(3) 友情・信頼、助け合い】



5 展開に当たって

見つめる活動では、事前のアンケートを活用し、本当の友達について子ども一人一人が思っている友達について見つめさせ、本当の友達についての焦点化を図る。そのうえで、「本当の友達とは、どういうことだろう。」という共通の問題意識を喚起する。

問い直す活動では、まず、「見える図」を活用し、資料や自分の体験を関連付けながら、「本当の友達」についての理解を深めることができるようにする。その際、思考をつなげる記号を使ったり、思考した順番に番号を付けさせたりすることで、子どもがどの流れでその思考にたどりついたのか把握できるようにする。

次に、対話活動中は、「例えば」「なぜなら」等の思考をつなげる発話をする中で、「本当の友達」についての思考を広げ、深めることができるようにする。また、対話活動が積極的に行われていないグループを中心に机間指導を行う。さらに、各グループから出た感じ方や考え方を短冊に書かせ、似ている考えを分類したり、関連付けたりしながら、一段高い「本当の友達」についての道徳的価値に迫ることができるようにする。

振り返る活動では、授業前の自己の生き方が、授業を通してどのように変わったかを比較しながら考えさせる。その際、授業の始めと何が変わったのかを明らかにさせ、子どもの感じ方や考え方を価値ある行為と意味付けし、これからの自己の生き方についての考えを深めさせる。

あたためる活動では、友達と助け合って活動している様子を紹介することで、道徳的実践意欲を高めることができるようにする。

6 本時の展開

[] 子どもの意識

□ 指導の手立て

※ 評価

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価	
見 つ め る 活 動	3	1 アンケートの結果を基に本時のめあてをつかむ。 ・助け合うこと ・友達と仲良くすること ・けんかもするけど、仲直りできると 2 本時のめあてや学習の流れを確認する。 本当の友達とは、どういうことだろう。	アンケート結果を提示することで、本当の友達について子ども一人一人が思っている友達について見つめさせ、「本当の友達とは、どのようなことだろう。」という共通の問題意識を喚起する。 
問 い 直 す 活 動	28	3 資料「ぼくらだってオーケストラ」を基に話し合う。 (1) 一人で考える。 ・仲良くすること。 ・自分と気が合うこと。 ・自分を助けてくれること。 (2) グループでの対話活動を行う。 ・得意なことを教えること。 ・励まし合うこと。 ・友達の話をよく聞くこと。 (3) 学級全体での対話活動を行う。 ・お互い理解し合うこと。 ・自分のことのように喜ぶこと。 ・心の奥底から友達のことを思うこと。	「見える図」を活用することで、資料や自分の体験を関連付けながら、「本当の友達」についての理解を深めることができるようにする。 「例えば」「なぜなら」等の思考をつなげる発話をするすることで、「本当の友達」についての思考を広げ、深めることができるようにする。 教師が、思考をつなげる発話をするすることで、各グループから出た、感じ方や考え方を関連付けながら、一段高い「本当の友達」についての道徳的価値に迫ることができるようにする。  
振 り 返 る 活 動	10	4 本時の学習の感想を書く。 ・今までは、気の合う人が本当の友達と思っていたけど、意見が違っていても本当の友達になることもあるのだな。 ・〇〇君は、僕に注意をするから嫌だったけど、僕のことを思ってくれていたのかな。 ・私には、本当の友達がいたことに気付いたので、これからも本当の友達をつくっていきたい。	本時の学習を通して、授業前の考えと授業後の考えがどう変わったのかを捉えさせ、道徳的価値に関して思ったことや考えが変わったことなどを書くように助言する。 ※ 振り返る活動における子どもの考え方を机間指導において次の視点で評価する。 ア 道徳的価値についての理解をより深めることができたか。 イ これまでの自分とのかかわりで考えることができたか。 ウ これからの自分の生き方について考えることができたか。
あ た た め る 活 動	4	5 教師の説話を聞く。 ・本当の友達っていいなあ。 ・本当の友達をもっとつくっていききたいな。 ・心の奥底から友達のことを思うと友情が深まるな。	自己の望ましい生き方を感得できるように、友達と助け合って活動している様子を紹介し、よりよい生き方をしようとする意欲をあたためることができるようにする。 